

# 第5学年1組 国語科学習指導案

令和6年6月25日（火）5校時

児童数

指導者

- 1 単元名・教材名 友達と伝え合おう、感じ方の違い  
「言葉と事実」 福沢 周亮 文

## 2 児童の実態と本単元の意図

### (1) 児童の実態

本学級の児童は、物語文が好きで、「いつか、大切なところ」では、心情曲線を活用して登場人物の心情を表す言葉を見付ける活動に積極的に取り組んだ。また、「新聞を読もう」では、思考ツールであるベン図を活用し、文章の中にある共通の言葉や違いを視覚的に捉える活動を行った。

全体での発表では、特定の児童は積極的に発言をすることができるが、発表にやや消極的な児童も多い。また、共有する際には、友達の意見を聞いて自分の考えを深めていくことが難しい児童もいる。ペアやトリオで考えを交流する活動を通して、少しずつ児童に友達の意見を聞く姿勢や、自分の意見を伝えようとする姿勢が身に付いてきた。

### (2) 単元、教材について

本単元で扱う中心教材「言葉と事実」は、筆者の主張を「問題提起」→「解説」→「まとめ」という尾括型の文章構成であり、事例の結びつきについて考えを整理しながら読みやすい文章であるといえる。また、筆者の主張を支える事例には、児童にとって身近な「イソップ童話」や「運動会」、「商品を紹介する札」を挙げており、児童も自分の考えを明確にしながら読み進めることができる。さらに、本文の内容からは、「言葉の使い方」や「受け取り方」、「相手を意識した表現方法」について読み取ることもできる。これらの作品の特徴から、問いと答えをpushしながら、主張とその根拠になる事例や接続語、指示語などの構成を明確にしながら読むことに適した教材である。

### (3) 指導について

本単元は、学習指導要領C「読むこと」のウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」を重点的に指導するものである。

指導に当たっては、「説得力を高めるための論の進め方について考える」力を重点に育成したい。単元の言語活動を「友達と伝え合おう、感じ方の違い」とし、教科書で読み取った内容を身近な事例でも考え、言葉が生み出す感じ方の違いを伝え合うことで言葉のおもしろさを味わわせたい。まず、単元の導入「ことなる見方」では、教科書の例を実際に体験することで本単元の学習に興味をもてるようにする。2ページの短い説明文の中で、段落に注目しながら、単元で学習していく「事例・解説・主張」の使い方を大まかに捉える。そして、「言葉と事実」では意味段落に分けながら段落ごとの役割を確認していく。次に、事例と主張を結びつけながら、筆者がどのように論を進め説得力を高めているのかを読み取っていく。さらに、身の回りから事例と同じようなことを探して感じたことを書く。実際に書くことを通して、事例の扱い方や主張と論の進め方を考える力を高めていく。また、単元を通して、情報を整理するために思考ツールを用いたり、考えを広げるためにグループでの話し合いを取り入れたりしていく。

### 3 研究主題との関わり

本校の研究主題は、「互いに認め合う学級風土を土台とした対話にする力の育成」である。児童が生きるこれからの社会では、答えのない問いに対して、多様な立場の者が議論し、納得解を生み出していくことが求められる。その過程で、他者との対話（コミュニケーション）は必要不可欠であり、他者と好ましく対話する力は、人生を豊かなものにするための基盤になると考える。

そこで本校では、話すこと・聞くことを中心とした「対話する力」に重点を置いた学級風土づくりと授業改善を行うことで、児童が主体的に自分の考えを表現し、対話を通して考えを深めたり高めたりしていけるよう、研究に取り組んでいく。

## 互いに認め合う学級風土を土台とした対話する力の育成 ～学級経営と話す・聞く活動の充実を通して～

### 【本単元で目指す児童像】

自分の考えを伝えるときに、事例などを用いて説得力を高めるための論の進め方について考えることができる児童



### 【仮説 2】

児童の発達段階に応じて、話す・聞く活動を工夫すれば、考えを高めたり深めたりするための対話する力が身に付くであろう。



### 【仮説 2 における本単元の手立て】

- ④ 積極的に課題を解決しようとするために、導入や課題を工夫し興味を引きつける。
- ⑤ 話合いの目的を共有し、発言の機会を確保するために、話合い活動の役割を決める。
- ⑥ 学習活動が明確になり、全体共有がしやすいワークシートの工夫をする。
- ⑦ 読み取ったことを整理し、自分の考えをもてるように思考ツールを活用する。



### 【仮説 1】

児童一人一人を大切にされた学級経営を工夫すれば、互いに認め合い、自分の考えを主体的に表現しあえるであろう。



### 【仮説 1 における本単元の手立て】

- ① 児童一人一人が課題に対してじっくり取り組むことができるように、個人で考えたり友達と考えを伝え合ったりする時間を十分にとる。
- ② 活発な話合いができるように、日々の様子を考慮して話合いのグループ作りを行う。
- ③ 児童の発言に対して、教師が肯定的に受け答えたり言い換えをしたりして、発言者が安心できる環境をつくる。

#### 4 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 〈知識及び技能〉 (2)イ
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 C(1)ウ
- (3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

#### 5 本単元における言語活動

説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(関連：言語活動例ア)

#### 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。((2)イ)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 (C(1)カ)	①進んで必要な情報を見付け、説得力のある論の進め方を考えたり、筆者の主張から身近な事例に置き換えて話し合ったりしようとしている。

#### 7 指導と評価の計画 (全9時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○「ことなる見方」を読み、友達と考えを交流することで、単元の学習に関心をもつ。	○学習用語 事例 解説 主張	○児童に似たような経験を想起させ、第7時以降の書く活動で生かせるようにする。
2	○「言葉と事実」を読み、感想を共有し、単元の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">友達と伝え合おう、感じ方の違い</div>	○単元の見通し ○音読の仕方 ○形式段落	○単元のゴールに向けてどのような学習が必要か話し合い、見通しをもって取り組めるようにする。

3	○段落を意味段落で分け、内容の大体を捉える。	○意味段落の分け方 ・話題提示・事例1 ・事例2 ・事例3 ・まとめ	○事例や文の書き出しを手がかりにして分けられるようにする。 ○段落番号が書かれたカードを動かしながら考えをまとめられるようにする。  [思考・判断・表現①] 課題を解決している様子・ノート等 ・内容の大体を読み取り、事例や書き出しをヒントに意味段落に分けているかを確認する。									
4 ・ 5	○事例1～3で扱った言葉と、受け手が感じたことを整理する。	○情報の整理の仕方 <table border="1" data-bbox="671 685 866 1238"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="671 685 735 864">お お か み が 来 た</td> <td data-bbox="735 685 866 864">事 例 1 の 言 葉</td> </tr> <tr> <td data-bbox="671 864 735 1070">本 当 か わ か ら な い</td> <td data-bbox="735 864 799 1070">信 用 で き な い</td> <td data-bbox="799 864 866 1070">受 け 取 る 人 が 感 じ た こ と</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="671 1070 735 1238">と び 言 葉 は 事 実 と 結 び が 付 け て 使 う こ と が 大 切</td> <td data-bbox="735 1070 866 1238">筆 者 の 主 張</td> </tr> </table>	お お か み が 来 た		事 例 1 の 言 葉	本 当 か わ か ら な い	信 用 で き な い	受 け 取 る 人 が 感 じ た こ と	と び 言 葉 は 事 実 と 結 び が 付 け て 使 う こ と が 大 切		筆 者 の 主 張	○表を活用して事例を整理し、主張と事例の関係を視覚的に捉えられるようにする。  [知識・技能①] 課題解決している様子・ノート等 ・主張とそれを支える事例との関係に着目して読んでいるかを確認する。  [主体的に学習に取り組む態度①] 課題解決をしている様子・ノート等 ・粘り強く事例から必要な情報を読み取ろうとしているかを確認する。
お お か み が 来 た		事 例 1 の 言 葉										
本 当 か わ か ら な い	信 用 で き な い	受 け 取 る 人 が 感 じ た こ と										
と び 言 葉 は 事 実 と 結 び が 付 け て 使 う こ と が 大 切		筆 者 の 主 張										
6	○筆者の主張をまとめる。	○情報と情報との関係 ・事例と主張	○表を活用し、根拠を明確にして話し合いができるようにする。  [思考・判断・表現①] 課題を解決している様子・ノート等 ・事例と主張との関係を考えて読み取っているかを確認する。									
7 本 時	○教師の示した様々な課題について、場面に適した言葉を書き、分類する。	○情報と情報の関係 ・事例と課題	○教科書の事例と課題とを分類し、身近なことからも同じようなことがあることを実感できるようにする。  [思考・判断・表現②] 課題を解決している様子・ノート等 ・絵から適した言葉を考えて、事例の3パターンに分類しているかを確認する。									

8	○教科書の事例と照らし合わせながらまとめる。	○説得する論の進め方 ・事例 ・解説 ・主張	○第7時で話し合ったことを基に、モデル文を参考にしながら書くことができるようにする。  [思考・判断・表現②] 課題を解決している様子・ノート等 ・事例・解説・主張の構成やつながりを考えて書いているかを確認する。  [主体的に学習に取り組む態度①] 課題を解決している様子・ノート等 ・粘り強く事例から必要な情報を読み取ろうとしているかを確認する。
9	○作品を読み合い、感じ方の違いを話し合う。	○作品を読む視点 ・事例と主張の関係	[思考・判断・表現②] 課題を解決している様子・ノート等 ・事例と主張の書き方のよさや感じ方の違いに気付いているかを確認する。

### 8 本時の学習指導（本時7／9時）

(1) 本時のねらい

- 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。  
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)カ


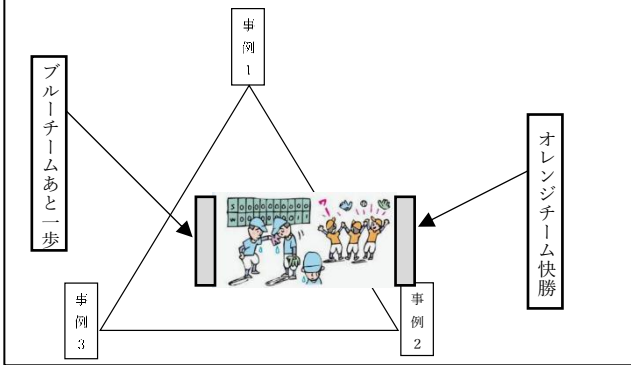
(2) 評価規準

- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができている。

【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点（配慮・手立て）◎評価 <b>★話す・聞く活動の工夫</b>	時間
1 前時の学習内容を振り返り、本時の課題を確認する。		○前時までに読み取ったことをもとに、本時からは自分の考えを書いていくことを確認する。  身の回りの「言葉と事実」をさがしてみよう。  ○課題の文末を変えて提示することで、聞き手の印象が変わることに気付くことができるようにする。	3

<p>2 学習課題を解決する。</p>		<p>例) さがしてみよう→さがせ (手立て④)</p>	33
<p>課題</p> 		<p>○児童が書く言葉を明確にするために、イラストや吹き出しなどで条件を設定する。 (手立て⑥)</p>	
<p>(1) 個人で言葉を考える。</p> <p>(2) グループで考える。</p> <p>・個人の考えを基に、3人組で言葉を1つに決め、教科書の3つの事例のどのパターンに該当するのか考える。</p>		<p>○用意された事例について、言葉を個人で想像することで、グループ活動に繋げる。</p> <p>○意見が偏らないように、話し合い活動の中で役割を決め、一人一人の発言の機会をつくる。 (手立て⑤)</p> <p>○言葉が出来たグループから黒板に貼らせる。</p> <p>◎意見を比べたり、様々な見方に気付いたりして自分の考えを広げている。 (思考・判断・表現)</p> <p>【課題を解決している様子・ノート】</p>	
			
<p>(3) 全体で共有する。</p> <p>3 本時の振り返りをする。</p>	<p>○情報と情報の関係 ・事例と課題</p>	<p>★考えた言葉がどの事例に近いのか、理由をつけて分類することで、筆者の主張を実感し、自分の考えをもつために話し合いを行う。</p> <p>○身の回りには、「言葉と事実」にあるような事例がたくさんあると知ること、筆者の主張に対して自分なりの考えを持てるようにする。</p>	9

○本時の学習で感じた最も伝えたいことを  
書かせ、次時に生かせるようにする。

〈期待される児童の振り返り〉

私たちの身の回りから「言葉と事実」を色々で見つけることができました。野球の見出しを考えて、表現する人の立場によって、言葉が変わることが分かりました。このことから、書く人が、何を伝えたいかを読み取ることが大切だと思いました。これから、新聞を読むときには、同じ事実が書いてあっても違う立場の新聞を比べて読んでみたいです。

(4)板書計画※

